

学生礼拝 10月5日(火)のお話

2021/9/20 総務課 神戸

タイトル 「人生が豊かになる映画」

こんにちは、総務課の神戸です。本日はお話をさせていただく時間を頂きましたので「人生が豊かになる映画」をご紹介しますと思います。

昔から映画は、好きで色々見ていました。昔は、TVで映画を放送する機会が多く特に、日曜洋画劇場の解説者 淀川長治さんの解説を一週間の楽しみにしていました。また、エンディングを聞くと日曜日の終わりを感じ残っている宿題を思い出し心が、ブルーになる事も多々ありました。この話は少し年を取ってる人しかわかりませんね 失礼しました

映画は映画館で見れば一番いいのですが、少し前までは、レンタルビデオ屋さんへ通い借りてきて見ていましたが、最近はAmazon プライムにて見る機会が多くなりました。好きな時間に映画を見ることができ、レンタル期間にとらわれることもなく、返しに行かなくても良いと 良い事づくめです。

話は、戻りまして。

YouTubeでの映画紹介がとても印象に残りましたので皆さんにご紹介します。YouTubeからの内容引用もさせていただいています。YouTubeさん ありがとうございます

ご紹介させていただきたい 作品は4本あります。

「ショーシャンクの空に」はすでに、私も見たことがありますが、その他は、是非直ぐにでも、見てみたいと思い即日鑑賞しました。どれも、とても素晴らしい作品でしたので、是非皆様もご鑑賞ください。

①まずは、インド映画からです。

「きっと うまくいく」です

インド映画といえば、私の中では、歌って踊ってしかイメージがありませんでしたがこの映画は、歌って踊っても少しありますが、スティーブン・スピルバーグ監督が3回見たというほど、評価の高い面白い作品です。この映画から感じることは、「競争社会の中で、正しい人生の選択を学べる事が出来る」です。

物語は、インドのエリートを養成する鬼学長のいる大学で、ちょっと変わった3バカトリオがたくさん騒動を起こします。この物語は、その3バカトリオの話です。エリート大学を卒業してから10年後の話から始まります。

10年後に3バカトリオの1人の主人公で最もキーマンのランチャーを探すところから始まります。このランチャーというのが型破りで、とてもすごい主人公なのですが、実は本質的でシンプルな行動原理で動いています。まず前提として、インドというのはものすごく競争社会だそうです。

貧乏から成り上がるにはエンジニアか医者になるという選択肢しかないほど。なので、主人公たちのいるエリート学校の子たちもみんな必死で勉強します。主人公のランチャーは一見勉強していないように見えても、そのエリート学校のテストでは、ガリ勉くんを抑えて1位になります。その1位になった時にランチャーはこう言います。

「なぜ私が試験で1位になったか分かるか？エンジニアリングに情熱があるからだ」と。生徒たちはみんないい点数を取って、人を蹴落としてでも自分が上に行くために、勉強を頑張っています。でも主人公のランチャーは違いました。

ただ単にエンジニアリングを面白くて、それだけのために夢中になって学んでいたんで

す。

他人に勝とうとしてやってる人、自分が好きだから夢中でやっている人、2者の取り組み結果に差が出るのは当たり前ですよね。Appleの共同設立者「スティーブ・ジョブズ」がスピーチで言ったように、「まず人生で夢中になれることを見つけろ」っていうのは、何よりも大切なことだと思います。

勉強で何かを学ぶというのは人を蹴落とすためにやるのではなくて、学ぶこと自体が面白いから、新しいことを知ることが楽しくてやることだと思います。ぼくたち日本人も、受験勉強して、良い大学や良い企業に行かないと、良い人生を送れないという固定観念にとらわれがちです。もう1度子供の頃に戻ったつもりで、新しい何かを知るの楽しいという、学びの原点に戻っていくべきだと思います。

この映画の中で心が打たれるシーンがありました。3バカトリオの1人にファルハーンっていう写真を撮るのが大好きな人がいます。ファルハーンは、父からの影響でエンジニアにならないといけないという強い固定観念を持っています。彼の父はそれを押し付けてきます。その友人に主人公のランチョーはこう問いかけます。「こんなに素晴らしい写真が撮れるのに、何で写真家を目指さないんだ？写真家にならないならもったいない」と。インドではそんなこと言う人は誰もいないわけです。

とにかくエンジニアか医者になることが人生の成功だと思っています。にもかかわらず、ランチョーは、ファルハーンに写真家になれよと進言します。ファルハーンがどうやって説得されて、どういった行動をしていくのか。このストーリーが素晴らしいので、是非映画をご覧ください。

- ・競争する人と比べることに、ずっとこだわって生きていくのか？
- ・夢中になれることをやって生きていくのか？

どちらの方が幸せな生き方でしょうか。ぜひ、「きっと、うまくいく」のランチョーから「競争社会の中での人生の正しい選択の仕方」を学んでみてください。

しかし、この映画には難点があります。上映時間が長いことです。3時間ぐらいあるので、時間に余裕がある時にゆっくり鑑賞してくださいね

②2つ目は「ショーシャンクの空に」です

この映画は有名で見たこともある人も多いと思います。この映画から「絶望の中で希望を持ち続けることの大切さ」を学ぶことができます。

あらすじとして、主人公のアンディーは、冤罪で刑務所に入れられてしまいます。何も悪いことはしてないのにも関わらず終身刑です。ショーシャンク刑務所には囚人がたくさんいます。いじめもはびこっている環境です。主人公にとって一番のキーマンになるレッドという無期懲役の人が来て言います。「この刑務所で希望なんて持つな。希望なんて持つと命取りになるぞ」と。ちなみにこのレッドは、私の大好きな俳優「モーガン・フリーマン」です。囚人のレッドは「希望を持てば持つほど絶望する、最初から何も期待するな」と、言います。

とはいえ、主人公アンディーは希望を捨てずに、行動し続けます。どんなに理不尽な目にあっても、きついことがあっても、行動し続けるんです。どうなったかは、是非映画を鑑賞してください。素敵なラストが待っています。

うまくいかないことがあると、自信を失ってしまいますよね。どんなときも常に未来だけを見て、希望へのマインドセットを間違えなければ、人生にできないことはないのです。

とはいえ、希望を捨てずにやり続ける事は難しいです。

そんな時に希望を与えてくれる唯一のものが、心から信頼できる仲間だと思います。映画の終盤にも、レッドが自分の人生に対して希望を持ってなくなる瞬間があります。それを救

ってくれるのがアンディーの存在でした。未来に対して、希望を1人だけで持ち続けるとするのは理想ですが、実際はとても難しいことだと思います。是非、「ショーシャンクの空に」から、希望を持ち続けることの大切さを、理屈ではなくて心の目で見てほしいです。

③3つめは「天使のくれた時間」です

「この映画は、幸せなこととは一体何かということは何度でも思い出させてくれる」映画です。

主人公はウォール街で優雅な独身生活を満喫しているエリートビジネスマン。名前はジャックで、「ニコラス・ケイジ」が演じています。ジャックは13年前に「もしケイトと別れていなかったらどうなっていたのか？」という「もしもの世界」に来てしまっていました。そこからジャックはケイトや子供たち2人とのふれあいを通じて、「幸せとは何か？」ということに気づいていくというお話です。

「この映画でジャックが気づいていくように、本当に人生を豊かにしてくれるものは大切な人との繋がりだ」と気づきます。つまり、家族・仲間・友達といった心から愛を注ぎたいと思う人に愛を注ぎきることです。これ以上に人生を豊かにしてくれるものがあるでしょうか。

ハーバード大学の研究の結果に、研究結果では「人生を幸せにしてくれるものは良質な人間関係だ」と結論づけている研究結果があります。仕事とプライベートどちらが大事かの二元論に意味はありません。重要なのはバランスです。仕事は楽しいです。

自分の意思決定・自分の頑張りで結果が出ます。ゲーム性があって中毒性があります。世の中は、貨幣経済・資本主義社会なのでお金を稼げる人が評価されます。

お金稼ぐと「陥りがち」なこと。皆さん街に繰り出してお金をたくさん使ってみてください。皆チャホヤしてくれたら、気づかないうちに仕事以外は価値がないもの。出世が全て。売り上げが全て。みたいな極端な価値観のバランスになってしまいやすいんですね。お金は無限に執着を生み出す麻薬だと思います。

仕事を頑張っている人こそ、もしくは今からもっと頑張っって活躍してやるぞと思ってる人こそ、今、身近な人を大切にしているだろうかと見直してみたいです。ただ今は大切な人に愛を注ぎ切ることが大切だと思っても、悲しいかな人間は、時間が経つと忘れてしまいますよね。

忘れたらこれを実践しましょう。

- ・「天使のくれた時間」の映画を見ること
- ・「身近な人を大切にしよう」と思い出すこと

この2つを実践しつつ、仕事に取り組むことが大切なことだと思います。素敵な映画ですので是非見てください

④最後は、「クレヨンしんちゃんオトナ帝国の逆襲」です。

なんで、クレヨンしんちゃんなのと思われるかもしれませんが。あのクレヨンしんちゃんです。

しかしながら実は素晴らしい映画なんですこの映画は、両親も自分と同じ1人の人間なんだってことを教えてくれます。

あらすじは、ある日大人たちが洗脳されて、誘拐され、しんちゃん達が助けに行く。助けにいくまでのプロセスもすごい笑えて面白いですが、後半にあるひろしの回想シーンが素敵です。しんちゃんが洗脳されたお父さんのひろしを正気に戻そうとします。その時にお父さんが自分の少年時代から、今日までのことを思い返します。田舎で周りには田んぼしかない道をひろしのお父さん（しんちゃんのおじいちゃんに当たる人）の自転車の後ろにひ

ろしが乗っています。幼少期かひろしが大きくなって、高校生になって、時には好きな人と2人で歩いたりします。

社会に出るため、右も左も分からない中で東京に行きます。

仕事は最初は失敗ばかりで、時には居酒屋で上司に励まされていきます。そんな中で仕事を頑張っしてしんちゃんのお母さんの「みさえ」に出会います。「しんちゃん」という子供が生まれます。仕事は相変わらず大変だけど、クタクタになって帰ってきたら大切な家族が待ってくれている。家族が疲れを吹き飛ばしてくれる、笑顔で待ってくれている。そして、毎日仕事頑張る。また今度は、家族4人で最初の田んぼの中の道を自転車で進んでいくんです。

親というのは、誰にとっても生まれた時からそばにいて、偉大な存在です。子どもから見た親とは思春期あたりから、両親の嫌なところも見えるようになってしまいますよね。口答えしたり文句を言ったりすることも増えていきます。しかしながら、年を重ねよく考えてみると、親とは、どんなに生意気なことをしても、時には怒られても最後は味方でいてくれる特別な存在でした。きっと誰でも親の存在はそのような物です。

ひろしの回想シーンを見て

「お父さんもお母さんも、かつては自分と同じ右も左も分からない1人の若者だったんだな」って気づきます。

- ・親自身も、正解が分からない中で、時には失敗をして落ち込んできた
- ・辛い時も前を向いて、必死に人生を生きて子供を育ててくれた
- ・自分と何も変わらない1人の人間なんだ

上記のことを知り、「なんで今日までそんな当たり前のことに気づかなかったんだろう」と思いました。そして、心からありがとうって気持ちがこみ上げてきました。両親に対して今、このようなことしてないですか？

- ・なんでこんな簡単なこともわからないんだ、とうんざりする
- ・感情的になってしまう
- ・時代遅れで世間知らずだと言う
- ・これまで両親はたくさん与えてくれたはずなのに、つい慣れきってしまってしまう
- ・悪いとこばかりに目が向いてしまう

映画を見て思い直します。両親も時代背景や育った環境が違う。両親は両親なりに頑張っして生きてきたんだと。ぼくたちも悩んだり、葛藤したり、時には失敗したり、間違いを犯したりすることありますよね。親も同じ人間なんです。両親とウマが合わないという人もいますよね。いつも仲良くしろと言うつもりはありません。むしろ、お互いを尊重して、一線を引くことの方が大事かもしれません。

「クレヨンしんちゃん」の映画を見れば、これまでよりも少しだけ大目に見ようと思うはずで。映画を見て下記の事を親にしてあげたいと思います

- ・自分の価値観でばっさり切り捨てない
- ・親の話に耳を傾ける
- ・妥協して譲ってあげる

しかしながら現在私の両親は他界しています。まだ、ご両親が健在な方は、今からでも遅くはありません大切なことを気づかせてくれた「クレヨンしんちゃんオトナ帝国の逆襲」は間違いなく「生き方が豊かになる映画」でした。

時間を割いてでも絶対見てほしい映画の紹介となりました。

ご清聴ありがとうございました。